

新年度予算99.5億円過去最高

～新規事業をお知らせします～

荒川区の4月からの新年度予算は総合スポーツセンターや荒川遊園の大規模改修、児童相談所、新尾久図書館の開設工事など2020年に向けて一斉に始まることなどで、昨年度と比べて44億円、4.6%増で過去最高額となっています。

新規事業もありますが、区民の暮らしの大変さに寄り添う抜本的な新しい応援対策は残念ながら、あまりありません。

日本共産党区議団は、介護保険料の軽減・ふろ割200の拡充・就学援助の引上げ・入学祝い金・18才までの子ども医療費無料化・シルバーパスの負担軽減・住宅リフォーム助成・奨学金条例改正などの提案を今年も行います。

地震ブレイカー・自動点灯ライトの無料配布 [2,174万円]

高齢者のみ世帯・障害者世帯・住民税非課税世帯を対象に配布。設置の要望にも応えます。

銭湯を活用した生活支援 [442万円]

70才以上の一人暮らし高齢者を対象に、銭湯の協力を得て入浴を見守る人の配置。

保育園整備 [17億9959万円]

今年開園の4園に加え、2019年度に東日暮里保育園の定員拡大、新規保育園5園開園などで6百人の定員拡大

保育園午睡安全対策 [2,548万円]

公立以外の保育園で、午睡時の安全対策を強化し、乳幼児の睡眠時の突然死を防ぐため監視モニターとベビーセンサーの設置補助。

0才～2才児定員×4万円(100万限度)

学校体育館に空調設備の設置 [932万円]

全校設置に向けてモデル校で設置し、効果と課題を検証する。

児童相談所の開設準備と里親登録普及等

【外観イメージ】



[6億725万円] 児童相談所の2020年開設をめざし、実施設計5500万円・年度内工事着工

(予算は次年度も含め13億円)

総合スポーツセンター大規模改修

[13億8551万円]

2020年リニューアルオープンに向けて実施設計。2019年度からの改修工事。



電話代行サービス・遠隔手話通訳サービス [586万円]

自分のスマートフォンのラインやスカイプで通訳オペレーターが“手話や文字”と“音声”を通訳し、電話で即時双方向につながりサービス。また区役所の窓口で手話での手続きがすすめられるようにタブレット端末を活用して手話通訳サービスを行う。



手話条例例制定 [298万円]

聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話を区の条例で言語と位置付ける。記念イベントの開催や手話での社会参加の促進を支援する。

タブレット端末で多言語対応 [669万円]

ベトナム語ネパール語等12言語の通訳が可能となるタブレット端末での通訳クラウドサービス

区内創業支援強化 [275万円]

創業支援セミナーを開催。(2019年度には参加した事業者のビジネスプランを審査し優先的に2年間家賃補助年目月5万・2年目月3万)



ファッションデザイナー向け

創業支援施設開設準備 [570万円]

仮称日暮里地域活性化施設内に整備予定準備で運営プランの策定とPRセミナーを実施。



街なか図書館整備 [177万円]

リサイクル本や寄贈本などを活用して区施設等に「街なか図書館」を整備。

新尾久図書館整備 [5億4320万円]

2020年開館で宮前公園内に建設

荒川遊園リニューアル [7億5442万円]

開園70周年・2020年リニューアルオープンに向けて12月から改修工事着手。

0歳児の保育時間が一律17時までなのは、東京都23区で荒川区のみ！荒川区に保育時間の延長を求めます



東京都荒川区議会議員選挙では、「東京都荒川区の保育時間延長」が争点の一つで、荒川区に保育時間の延長を求めます。



2月1日に「現在8時30分から午後5時までとなっている0才児の保育時間を延長し、荒川区の認可保育園で11時間保育を年齢に関わらず可能な限り早く実現して下さい」



という議会陳情書が提出されました。

ネット署名、区議会会派まわりなど子どもを抱え、大きなお腹で精力的に頑張っています。



この声が議会も行政も動き出しています。私も文教子育て委員として応援したいと思います。